

## 口境目の洞窟

北久保七海

「人口」

え、いりぐち？ ううん、じんこう。 あ、人口。

ずいぶんぼんやりとした洞窟、道筋はまだ見えない。ていうか人口も入口も出口も全部口がつくだなんて、人間は口から始まるのか。あ、みつけ。うまれたては何でも口にして世界を知る

（リカちゃん人形のサンダルはとても苦かった）

出る、抜ける、終わる、通過する、たべる、つかする、はなす、つかする、はなされる。

鼻。（別のところにたどりつく。）花。虫、蜜、を吸う、わたし、の目の前、を通過する、仲介する。

増加、花の人口。

（もし、造花に取って代わられたら減っちゃうのかな）

イマジナリーフレンド、てきな

わたしたちもいっしょ、なんて

年々大きくなる長方形の□の中に広がる「いま、どうしてる？」  
でだけで一日終わってる

新しいものへ 古いのから（レ点みたいに）

新しいのから古いのへも、さかのぼる という

なんという不思議！

（みたいな話を真夜中に放つ。）

幻と現をカン違いしたら、イエローカードを渡します。

自分の居る所はしっかり覚えておくこと。

ここから先は踏み入れない、という琴線が、

見えなくなるんです、ときどき

昔、布団を頭までかぶって寝ると熱を出すと言われていた  
顔だけがつめたい空気にさらされる

解体されている家

の横を通るとき、

玄関と二階に向かう階段が剥き出しになっていて

見てはいけないものを見ているようで恥ずかしくなる

（お手洗いの前にある段差は意図的だって、ぜったい）

夕方の丸ノ内線に飲みかけのカプチーノ

を持ち込むとき、

この空気はいつの空気なの、って

プラスチックの蓋と紙コップを聖域化しようとする

いつだってどんなときだって超えている、またいでいるものがある、

その緊張感をおぼえている

わたしたちもいっしょ、なのに

向こう側に 人 が入ると

透明人間みたいにな

あつ

と超えてしまうこともある

「いつでも相談してね」とか

投げやりなことを言ってしまう

（何を言ったらいいのか分からないこともあるのに）

ぞわりとした痛みは、のちのちに、じわじわ

境目には、

やさしい目をした何かがい

またいではいけない口を

何もいわないその目で

見守っている